

高田ウメの台木利用による寒凍害防止対策

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

果樹 - ウメ - 栽植様式

2 担当者

斎藤祐一・長谷川一朗・勝又治男・伊藤恵造・永山宏一

3 要旨

高田ウメの台木として利用する目的で、スモモ(ミロバランスモモ4系統、インペリアル(インペリアルエピネウス))の実生を台木として利用した場合の耐寒性および果実生産について、鶯宿、梅郷、藤五郎の中間台を対照として調査した(表1)。

- (1) 植付6年後の健全樹率は、対照区では16.7～50.0%であるのに対し、ミロバランス系では71.4～92.3%、インペリアルでは100%であった。
- (2) ミロバランス系における接木法別の健全樹率は、低切接区は50～83.3%、高切接区は80～100%、高芽接区は66.7～100%であり、低切接区がやや低い傾向であった。
- (3) ミロバランス系およびインペリアルの生産性は、台木によりばらつきはあるが対照区と比較して同程度と考えられた。接木法別では、低切接区は、高切接区、高芽接区よりやや高いと考えられた。
- (4) 接木部位は、高切接区および芽接区は台負け樹が多かったが、実用上問題はないと考えられる。低切接区は台勝ち樹が多かった。
- (5) 以上の結果より、ミロバランス系とインペリアルは、生存率が高く、寒凍害が少なく、耐寒性が強いと考えられた。このうち、ミロバランス系420とインペリアルは、健全樹率が高く有望であった。接木方法では、台木を長くすることにより耐寒性が高まるが、生存樹の生産性がやや低下する傾向が認められた。

表1 寒凍害による枯死及び障害の状況(年次別枯死樹数以外は植付6年後の調査)

試験区 (台木 接木)	調査 樹数	枯死の状況						生存率 (%)	台木別 生存率(%)	生存樹の状況				健全 樹数	健全 樹率 (%)	台木別 健全樹 率(%)		
		枯死樹数(本)								寒凍害樹数	弱勢 樹数	健全 樹数	健全 樹率 (%)					
		03	04	05	06	07	08										台木	穂木
290低	4				1			75.0					0	1	1	2	50.0	
290高	5			1				80.0	78.6				0	0	0	4	80.0	71.4
290芽	5					1		80.0					0	0	0	4	80.0	
373低	6							100.0					1	1	1	5	83.3	
373高	6							100.0	94.4				0	0	0	6	100.0	83.3
373芽	6			1				83.3					0	1	1	4	66.7	
420低	5							100.0					0	1	1	4	80.0	
420高	4							100.0	100.0				0	0	0	4	100.0	92.3
420芽	4							100.0					0	0	0	4	100.0	
421低	4			1				75.0					0	0	0	3	75.0	
421高	5							100.0	91.7				0	0	0	4	80.0	83.3
421芽	3							100.0					0	0	0	3	100.0	
インペリアル低	6							100.0					0	0	0	6	100.0	
インペリアル高	5							100.0	100.0				0	0	0	5	100.0	100.0
鶯宿低	4	1		1				50.0	66.7				0	1	1	1	25.0	16.7
鶯宿高	2							100.0					1	2	2	0	0.0	
梅郷低	5							100.0					0	2	2	3	60.0	
梅郷高	5	1					1	60.0	80.0				0	1	1	3	40.0	50.0
藤五郎低	3							100.0					0	0	0	3	100.0	
藤五郎高	8	2		1				62.5	72.7				2	2	3	1	12.5	36.4
全体	95	4	0	5	1	1	1	87.4	-				4	12	13	8	-	-

生存率(%): 生存樹数 / 調査樹数 × 100 健全樹率: 生育健全樹数 / 調査樹数 × 100
穂品種を接木する高さは、低切接区が地上15cm、高切接区、高芽接区が地上50cmとした。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成18～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006～2008)